青丘文庫研究会 月報 No.301 2023年5月1日

青丘文庫研究会　〒657-0051 神戸市灘区八幡町 4-9-22 (公財)神戸学生青年センター内
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019　https://ksyc.jp/sb/　e-mail hida@ksyc.jp
①在日朝鮮人運動史研究会関西部会（代表・飛田雄一）
②朝鮮近現代史研究会（代表・水野直樹）
郵便振替＜００９７０－０－６８８３７ 青丘文庫月報＞
年間購読料 3000 円。在日朝鮮人史研究関西部会会費 5000 円／年（雑誌 3 冊を入手できます。）

3 年 3 ヵ月ぶりのソウル

水野直樹

今年 3 月、シンポジウムでの講演のために 4 泊 5 日でソウルを訪れた。前回は、新型コロナ・ウィルスが世界に蔓延し始める直前の 2019 年 12 月だったので、3 年 3 ヵ月ぶりということになる。コロナ・ウィルスの感染が下火になりつつあるといえ、国をまたいでの移動にはまだバリアがあるので、韓国への入国や日本への帰国の際に面倒なことにならなければいいな、と考えていたが、その点ではほとんど問題になることはなかった。

3 年ぶりの韓国の街の様子は大きく変わっているだろうと予想していたが、それほどの変化は感じられなかった。もちろんソウルの中心街を少し歩いただけなので、私が感じたことは間違っているかもしれない。あるいは、眼には見えない深いところで、社会のあり方が変わってしまっているのかもしれない。

ともあれ、久しぶりのソウルだったので、時間がある限り、街を歩き、博物館などを回ってみた。3 年ほどの間に博物館などが増えたり、内容が充実したりしているように感じた。

今回のソウル行きは、昨年春に『在日朝鮮人団体事典』を出した民族問題研究所が主催するシンポジウム「日帝時期在日朝鮮人社会の形成と団体活動」で基調講演をするためだった。シンポジウムの会場は、昨年 8 月に開館したばかりの大韓民国臨時政府記念館のホールだった。西大門刑務所公園のすぐ隣（市内から行くと、刑務所公園を通り過ぎたところの高台）にその記念館は建てられている。三一独立運動・大韓民国臨時政府樹立 100 周年に合わせて国立の記念館として建設された会館である。2 階・3 階には展示室があるとのことなので、シンポジウムの合間に見学に行ってみた。臨時政府の活動を示す各種の資料・写真などが展示され、臨時政府の歴史を知ることができる。

今回のソウル滞在中には、大韓民国臨時政府記念館のほか新聞博物館（東亜日報社が運営）、ソウル歴史博物館（ソウル市立）、大韓民国歴史博物館（国立）などにも足を運んだ。これら以外にも、韓国の近現代史に関わりのある博物館として、ソウル市内には西大門刑務所歴史館（ソウル市立）、戦争博物館（国立）、そして民族問題研究所が運営する植民地歴史博物館などがある。また、特定の人物に関する記念館もたくさんある（例えば、安重根記念館）ので、2，3 日の滞在ではすべてを見て回ることができない。

今回は、延世大学校新村キャンパス内に設けられた尹東柱記念館を訪ねることができた。ソウル市内にはこれとは別に尹東柱文学館という民間の施設もあるが、尹東柱記念館の方は尹東柱が延禧専門学校在学中に住んでいた寄宿舎（ピアソン館）をリノベーションして、2020 年 8 月にオープンしたという。ピアソン館自体がそれほど大きな建物ではないので、記念館として利用するには工夫が必要だったようだ。博物館の一般的な展示法（壁などにたくさんの資料を展示するという方法）ではなく、大きな机のような木製の家具の引き出しに資料が収められている。見学者は何が入っているかを書いたラベルを見て、引き出してみなければならない。資料を探すにはちょっと不便ではあるが、尹東柱に関するすべての資料がこれらの引き出しに収められているのでは、と感じた。記念館をつくるために新たな資料の収集にかなり力を入れたように思われる。質素な記念館だが、尹東柱にふさわしい雰囲気になっている。ただし、見学するには予約が必要なので、旅行の間に時間が空いたから見に行くというようにはできないのが、少し残念ではある。

ともかく、ソウルには歴史の深みを感じ取ることができる博物館・記念館がたくさんある。ソウル歴史博物

館などは、常設展示だけでなく企画展示にも力を入れているので、ソウルに行くたびに見に行って、新たな発見をすることも楽しみである。あらためてゆっくり時間をとってソウルを訪ねてみたいと思っている。

1970 年までの大阪の被差別部落と朝鮮人
－大阪市 H 地区解放住宅への朝鮮人入居の経緯を追って－　塚﨑昌之
（2023.4.9 在日朝鮮人運動史研究会関西部会）

京都の在日朝鮮人史を専門とする高野昭雄によると、京都での被差別部落民衆と朝鮮人は、被差別部落内に居住することや居住地域が接近することも多かったが、交流は比較的少なく、皮革産業、西陣織等で仕事が競合することも少なかったとされる。その一方、大阪では朝鮮人の渡来が急増し始める 1922 年から朝鮮人と全国水平社の関係が始まり、その後、皮革産業などでの共闘関係も生まれ、その様な関係が戦後にもつながっていく。そうした関係の中で大阪市内の H 部落を中心に 1950 年代末から、全国にさきがけて教科書無償化闘争、そして 1960 年代後半からの解放住宅への朝鮮人入居を両者の連帯の下に勝ち取っていったのだが、その事実は明らかにされず、研究も行われてこなかった。

報告では戦前期の大阪の朝鮮人と被差別部落の連帯・対立を論じたが、ここでは割愛する。H 部落では 1917 年という早い段階から朝鮮人の居住が始まり、様々な職業の人々が住むようになる。しかし、1945 年 6 月 7 日の第三次大阪大空襲の爆弾・焼夷弾・機銃掃射の嵐でH部落とその周辺の地域はほぼ全焼、潰滅する。この空襲はこの地域を狙ったものではなく、完全に誤爆であった。この地域の遺体 518 体はH部落に近いＳ寺に集められ、仮埋葬された。現在、その慰霊碑には過去帳を基に 470 名の名前が記され、48 名は名前不明者とされている。その内の 20%弱が朝鮮人と思われ、朝鮮人が集住していた地域であったことを物語る。ただし、その名前の多くは創氏改名の名前である。

現在、私も加わって行っている朝鮮人空襲被害者の調査の中で、H 部落に居住し、この空襲で母親兄弟妹の家族 4 人を亡くされた朝鮮人女性と出会うことができた。戦後 76 年間、手を合わせる場所もなかったというこの女性に、遺骨は S 寺に名前不明者として合葬されていることをお知らせして、一昨年夏にそのご家族のお名前を本名で慰霊碑に加筆することができた。やっと、肉親を追悼する場所ができたのである。この記名等も H 地域居住の日本人の方々のこれまでの調査、そして協力があって可能になったものである。

空襲で地域が壊滅したことによって朝鮮人の居住はいったん途切れるが、戦後の混乱の中でスラム化が進むと、再び朝鮮人の居住が始まる。朝鮮戦争の真っ只中、連合軍統治の終わる 1952 年に S 寺の仮埋葬を掘り起こして合葬する動きが始まり、1953 年 8 月 15 日に日本人と朝鮮人がともに祀られる慰霊碑が建てられる。この建立には、この地域の被差別部落の人々や朝鮮人の協力が大きな役割を果たした。これらの朝鮮人は日本政府が弾圧していた共和国支持の在日朝鮮統一民主戦線（民戦）側の人々であった。

その翌年、H部落では若者たちの活動が始まり、H部落が近隣の地域と同じ町名になるとき、その近隣地域の差別的対応に端を発し、1959 年には解放同盟の支部ができた。その最初の闘いが給食費を払えない、宿題ができない等の子どもたちへの教員の差別的対応を調べ、告発する教育闘争であった。そして、在日朝鮮人の親と子どもも参加した対市交渉で、全国初めての教科書の無償を勝ち取っていく。

H部落では 1966 年に住宅要求組合が結成され、翌 1967 年に最初の解放住宅が出来上がる。初期の解放住宅には国籍条項が厳しく適用されることはなかったが、1965 年、当時の解放同盟で大きな力を持っていた京都の朝田善之助が「部落排外主義」とも受け取れる立場を取ったことなどもあり、国籍条項が厳しく適用されることになった。H 部落の幹部 O たちは、朝田の下に通い、朝田理論を学び、朝田を尊敬もしていた。しかし、O たちは部落の中でもことさらに劣悪な環境に暮らしている朝鮮人たちを放っておいては街づくりができないと、朝鮮人とともに闘う道を選び、朝鮮人たちも市での徹夜交渉に積極的に取り組むなどして、朝鮮人の解放住宅の入居を実質的に勝ち取った。この成果が大阪全体に広がっていくことになる。朝鮮人たちの聞き取りの中では皆一様に解放住宅へ入れたことへの喜びを語り、朝鮮人も日本人もこの両者での闘いを誇りに思っている。この大阪での闘いは大阪という地域で、戦前期からの両者の共闘という伝統の上に成り立った闘いであったとも言えよう。

ただ、他地域・他府県との比較が必要等の指摘を受けたが、この発表が端緒となって他地域での研究が始まれば幸いである。

『在日朝鮮人史運動史研究会』52号

2022 年 10 月、A5、119 頁、発行：緑蔭書房、2400 円+税

※月報読者には、送料とも特価 2160 円で販売します。事前に、＜００９７０－０－６８８３７ 青丘文庫月報＞に送金をお願いします。

●目次●

日本植民地下の戦時総動員政策と忠清道地域の民衆
——９から１３回目の韓国訪問(調査)の報告 龍田光司
山陰地域における朝鮮人「密航」取締りの諸相 西村芳将
植民地出身公務員の処遇
——サンフランシスコ条約、及び「高辻回答」 藤川正夫
《資料紹介》中村三笑「内地に於ける朝鮮人」 樋口雄一
《追悼》 崔碩義先生の御逝去を悼む／渡辺正恵さんの御逝去を悼む

＜青丘文庫研究会の記録＞ 月報が 2022 年 10 月以来の発行となってしまいました。この間、メールニュースを発行していました。メールニュース希望の方は、飛田雄一 hida@ksyc.jp までメールをお願いします。以下、のちのちの青丘文庫研究会歴史のために記録を掲載しておきます。

＜２０２２年＞

- １１月１３日（日）午後 3 時半～5 時、在日（池山一男（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 D2）「李北滿の戦後の活動(統協と民社同を中心に（仮題）)、近現代史（休み）
- １２月１１日（日）午後２時～、在日（韓光勲「半世紀の市民運動と歴史実践-飛田雄一さんのライフヒストリー分析」)、午後３時半～、近現代史（梶居佳広「韓国・朝鮮問題をめぐる日本の新聞論調（1970～72 年）」）

＜２０２３年＞

- １月８日（日）在日（①午後２時～、飛田雄一「日韓歴史認識問題」とは？―じんけんスコラ講義より―)、②午後３時半～、石川亮太、「ある在日家族の 100 年―林芳子さんとご家族の歴史」)、近現代は休み。
- ２月１２日（日）在日（KCC で映画会、以下の予定「宝塚と朝鮮人」福知山線武田尾の慰霊碑のこと 映像 20 分 トーク 30 分 担当：鄭世和、「大阪大空襲と朝鮮人」鄭末鮮さんの証言・崇禅寺来訪 映像 15 分～20 分 トーク 30 分 担当：塚崎昌之)、近現代史は休み。
- ３月１２日（日）午後２時～、在日（韓光勲「関東大震災時の朝鮮人虐殺はどう報じられてきたか―戦後の朝日新聞の論調を中心に」)、午後３時半～、近現代史（堀内稔「植民地朝鮮における中国人労働者―1920 年代、社会問題化した中国人労働者の流入―」）会場：青丘文庫、ＺＯＯＭ放映はありません。
- ４月９日（日）午後３時半～５時、在日（塚崎昌之「1970 年までの大阪の被差別部落と朝鮮人－大阪市 H 地区解放住宅への朝鮮人入居の経緯を追って－」)、近現代史は休み

●青丘文庫研究会●

２０２３年５月１４日（日）午後２時～５時

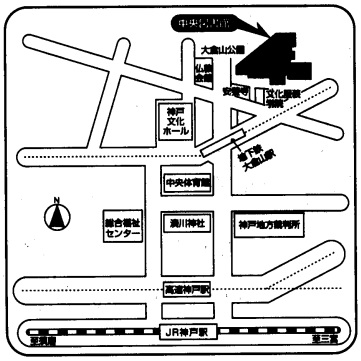
■在日朝鮮人史研究関西部会

１）午後２時～、丁智恵「冷戦期における在日朝鮮人の映画運動」

２）午後３時半～、趙正熙「「宝塚朝鮮人追悼碑」をめぐる民間外交の実現」

■朝鮮近現代史研究会は休みです。

会場　青丘文庫（神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351、新館３階で身分を証明するものだして入館証を受け取り４階会議室にお越しください。）ZOOM 中継はありません。



【今後の研究会の予定】

- ６月１１日（日）在日（未定）、近現代史（水野直樹）
- ７月９日（日）在日（高野昭雄）、近現代史（大山高弘「帝国日本の「鮮満一体化」構想と京元鉄道ー元山日本人居留民の活動を中心にー」）
- ８月は休み
- ９月１０日（日）在日、KCC で映画会
- １０月８日（日）在日（大槻 和也）、近現代史（未定）
- １１月１２日（日）在日（未定）、近現代史（未定）
- １２月１０日（日）在日（未定）、近現代史（未定）

※報告希望者は、飛田または水野直樹に連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】　次号以降の原稿分担です。印刷版の月報がすくなくてエッセイも進みませんが以下よろしくお願いします。締め切りは２０日です。梶居佳広、高野昭雄、李裕淑、藤川正夫、張允植、松下佳弘、三宅洋介、金早雪、高希麗、伊地知紀子、川那辺康一、廣瀬陽一、高正子、斎藤正樹、土井浩嗣、上田文夫、 中川慎二、塚崎昌之、宇野田尚哉、姜健栄、佐野通夫、三宅美千代、全淑美、太田修、藤永壮、水野直樹、河かおる、本岡拓哉、梁千賀子、山根俊郎、川瀬俊治、小野容照、樋口大祐、梶居佳広、高木伸夫、長志珠絵、藤井幸之助、黒川伊織、吉川絢子、李月順、高祐二、李景珉、青野正明、呉仁済、勝村誠、松田利彦、飛田雄一（思いつくままにリストアップしました。前倒しで原稿を書いてくださってもＯＫです。）

【その他ご案内】

１）表題：「玄海灘」（金達寿原作）８月 30 日～9 月 3 日、調布市せんがわ劇場（182-0022　東京都調布市仙川町 1-21-5　℡：03-3300-0611）／料金：4000 円（調布市民優待：1000 円。異文化を愉しむ会への事前申し込みのみ）／問い合わせ：・異文化を愉しむ会　電話：042-486-8129　携帯：090-4623-9283（呉文子）メール：o-moonja@jcom.home.ne.jp、・玄海灘を上演する会　電話：042-446-0205　携帯：090-3575-3617（二宮聡）メール：peopletheater.n@gmail.com

２）神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー／関東大震災 100 年― 流言蜚語、朝鮮人虐殺、帰還―／講師：同志社大学 人文科学研究所 嘱託研究員、桃山学院大学 国際教養学部 兼任講師　西村直登さん／日時：２０２３年７月２０日（木）午後６時半／会場：神戸学生青年センターウエスト 100　TEL 078-891-3018（阪急六甲駅下車、線路南を西へ 100 メートル）
参加費：６００円　（当日会場でお支払いください）

【編集後記】

■コロナも収束を迎えて？、いつもどおりの研究会がスタートします。
■郵送の方には郵便振替用紙を同封しています。＜００９７０－０－６８８３７ 青丘文庫月報＞2022 年度会費 3000 円をお願いします。（文庫図書購入募金（2000 円）は文庫が新しい本の受け入れがスペース的に無理となったので集めていません。）在日朝鮮人史運動史研究会関西部会の会員はその会費 5000 円をお願いします。（雑誌 3 冊を送ります）　飛田雄一　hida@ksyc.jp